仁心看護専門学校　2022年度　学校関係者評価会議報告書

日時：令和5年6月29日（木）15時～
場所：仁心看護専門学校　会議室

教職員及び事務

吉牟田　直孝	仁心看護専門学校　校長
冨吉　良子	仁心看護専門学校　副校長
穂山　みどり	仁心看護専門学校　教務主任
上原　啓介	仁心看護専門学校　事務長

出席委員

山根　朱美	医療福祉センターオレンジ学園　看護部長
松下　京子	福山病院　総看護師長
三島　真実	松下病院　総看護師長
徳永　美代子	たちばな医療専門学校　副校長
松下　兼綱	たちばな医療専門学校　事務長

欠席委員

庄田　成伸	南九州病院　看護師
野村　和人	後援会会長

学校関係者委員による評価及び意見

・2022年度の自己評価・自己点検結果に対して、概ね良い評価であるとの意見を得た。

・卒業生の状況について

卒業生への就職後の不安など10月にアンケートを実施し、技術経験など学校で卒業前に修得できるようにしていく。

意見：現在プリセプターやスタッフの指導を受けながら勤務することが出来ている。大きな問題もなく経過している。

始良地区の新人研修などに積極的に参加を促している。

関連施設でローテーションを行い、技術の習得や患者様への関わりなどを経験できるようにしていけるよう検討中である。

・学生募集について

鹿児島市電に広告を1年間提示する。

霧島市のホームページから学校がすぐ検索できるようにしている。

次年度より男子学生の枠を外す

高校訪問やガイダンスの実施　を行っている。

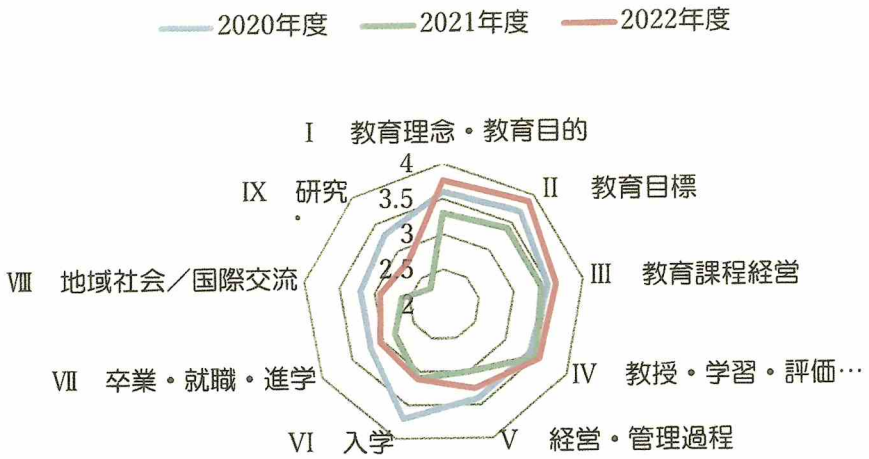
意見：知名度をもう少しあげれるようにする必要がある。

高校などへ今いる学生の現状報告をする。高校訪問等の回数を増やすなど

2022年度　自己評価・自己点検結果

2023年4月
仁心看護専門学校

自己評価・自己点検結果



評価基準	
４：当てはまる	２：どちらかというと当てはまらない
３：どちらかというと当てはまる	１：当てはまらない

総　括

自己点検・自己評価の結果、３年間の大項目を比較すると2021年度より2022年度は全ての項目でポイントが高い。

大項目のⅠ～Ⅳについても、近年の評価を上回っている。これは、カリキュラム改正時の見直しが反映されており、教育理念に始まり教授・学習・評価過程までの一連の教育課程運営において整合性があると評価できる。

Ⅵの項目では、前年度と横ばいである。入学生が定員を大きく下回ったことも要因と考える。しかし、オープンキャンパスの応募者の増加や近隣の高等学校からの入学者の増加も見られるため、引き続き募集要項の広範囲な配布、高校訪問等で本校の魅力の周知を図っていく。地域社会への働きかけは例年低く課題であったが、新カリキュラムに「地域を知る」の科目を設定したことにより、評価が上がっていると考える。

昨年度も新型コロナ感染症がまん延する中で、入学式・戴灯式・卒業式と学年の節目の行事を保護者参加のもと実施できたことは学生のモチベーション維持に寄与できたと考える。
新型コロナ感染の感染者の発生は前年度より多くみられたが、当人のみの感染で周囲への波及はなかった。早急の対処や感染症対策ができたことや、健康観察記録や不要不急の行動自粛等が学生に浸透していると考える。

臨地実習は病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、就労支援事業所では実施できたが、この３年介護保険施設や保育園、重度心身障がい児（者）施設等では実施できていない。しかし、学内実習を工夫することで学習効果を得られたと考える。

３年生の実習では約７～８割を臨地で実習できている。統合実習では2Gが学内実習となったが、アンケート結果より多重課題の看護やチームを知ること、看護管理について学べたとの回答が得られた。自宅待機や実習中止としながらもカリキュラムを履修できたことは、教員・学生共に日々努力したことと、各実習施設の協力をいただき、期間の追加や変更に対処していただけたことが大きい。

また、これらの結果看護師養成所として資格取得（94%）を支援できたが、社会に貢献できる人材育成を目指し今後もカリキュラム運営に努力していく。

項目ごとの評価

Ⅰ　教育理念・教育目的

教育理念・教育目的の教育上の特徴と法との整合性は適切であると評価している。理念の「人間愛」「人間尊重」はキーワードとして学生には定着しており、その理念は学校運営の柱と認識できている。しかし、「4．学生の学習指針となっている」や「7．教育環境」「9．教師の教育活動の指針になっている」のポイントが3.5と他に比して評価が低いのは教育理念・目的に学生への具体的教育活動が表せていないことや全員の共通理解が出来ていないためと考える。カリキュラム改正時に教育理念・教育目標の見直しを行ってはいるものの、表現自体はこれまでと同様のため全員で共通理解することが求められる。

Ⅱ　教育目標

教育目標の評価は平均3.9であり、目標設定の妥当性は評価できる。
教育理念・教育目的との一貫性や卒業後の継続教育を示した目標設定については新カリキュラム改正時に見直しがされたことなどから評価が高い。

Ⅲ　教育課程経営

全体的に見ると評価は3.6である。教育課程の編成や教育計画（単位履修方法）、単位認定基準等については3.8と評価が高い。学生の看護実践体験の保障については、3.4と他に比して低い。「41．臨地実習施設の養成所の教育理念・教育目標の理解」や「43．臨地実習指導者の役割の明確性」などが2.6や3.0と低い。各実習前に実習施設との打ち合わせや要項説明を行っているため、引き続き丁寧な説明と指導者と教員の協働体制を整えていく。教員の教育・研究活動に関しては平均3.5と他に比して低い。しかし、教員が授業準備にとれる時間の確保については3.7と評価が高い。

Ⅳ　教授・学習・評価過程

教育理念から教育目的・目標、単元への考え方は評価が高く授業内容についても評価が3.6である。授業間の重複・整合性・発展性についても調整できていると評価している。

評価基準と方法の公表については4.0と全員が「できている」と評価している。また、単位認定の公平性は4.0に近い。

Ⅴ　経営・管理過程

経営・管理過程の中項目の評価は平均2.6～3.7である。財政基盤についての項目が3.0と低い。施設設備の整備のなかで学生及び教職員にとっての福利厚生の整備と学生生活を円滑に送るための整備の項目が3.0と3.1と最も低い。学生生活の支援は3.3と支援体制を評価している。

自己点検・自己評価は3.3である。評価はほぼ「やや当てはまる」であり、評価したことが明確にフィードバックできていると実感できていない。

Ⅵ　入学

この数年は応募者が少なかったことが、選抜方法の妥当性の評価の低下に関係したと判断する。しかし、新型コロナ感染症のまん延する中で、オープンキャンパスを２日間実施することができた。29名の応募があり、当日に新型コロナ感染の影響により３名の欠席があったものの26名が参加しそのうち14名が入学している。また、欠席３名のうち２名も入学している。この２年間は高校訪問も限られており広報が不十分であったにも関わらず、29名の応募があったことは評価できる。また、応募者の中でも卒業生・在校生の知人・親族等の応募があることは強みである。

Ⅶ　卒業・就業・進学

卒業・就業・進学では、卒業生の就業先との連携を図るシステム作りがなかなかできていないことが評価を低くしている。卒業生の活動状況の分析を教育活動に生かす体制が不十分である。

Ⅷ　地域社会／国際交流

地域社会については例年全体的に評価が低い。昨年度より、ボランティア論をカリキュラムに入れたことや今年度よりピア活動を開始し、その中でもボランティア活動などを計画しているため活動が期待できる。

国際交流については、授業科目の設定は3.5と評価が高い。帰国学生・留学生の受入れ体制がないために項目によっては2.1と低い。

Ⅸ　研究

昨年度の評価は2.8と評価は低い。この３年間は研修機会が減少し、県内の研修やリモート研修となっていたことが、関係している。今年度は、積極的に活用し共有していく。